

ロチェスター工科大学ではほとんどの施設が学生たちによって運営されている。学内の飲食店やカフェでは主に盛り付けや精算が学生たちの仕事に割り当てられ、図書館では本の整理や受付、売店などでは店内で働くのは学生のみである。各施設で働く以外にも、学生たちは仕事をする事ができる。学生寮の生徒たちを統括役や、大学の催し物を運営する関係者は、ほとんどが学生で構成されている。また、個人的な指導を必要とする学生には、専門や特技を持った学生が大学から報酬を受けて指導する。例えば、英語能力に不安がある留学生には、米国人学生が彼らの個人指導を請け負うことができる。これら仕事における報酬は、仕事内容によって異なるが、最低賃金はニューヨーク州の法律で定められた金額である時給 6.75 ドルである。飲食店などでの単純な仕事では、その金額しか貰うことができない。しかしながら、このような仕事は学生がするときと場所を選ぶことが簡単なため、授業の空き時間などを利用して働く学生が大勢いる。大学行事の手伝いや個人指導のような特定の条件を必要とする仕事では、より多くの報酬を受けることができる。留学生の場合、労働経験の証明があれば Social Security Number をとることができる。これはアメリカ合衆国内にいる個人を特定するための番号で、日本における戸籍のような扱われ方をする。この番号は運転免許証取得時などの個人証明のために使うことができるほか、大学内では学籍番号の代わりとして使うこともできる。これは一度取得してしまえば一生涯有効なものであるため、私は寮の大食堂で働いて取得した。この番号をこの先使用する機会があるとは限らないが、この留学における一つの拾い物であるといえるだろう。

学内では多様な国から来た友人を作ることができたが、問題に見舞われた際に一番頼りになるのは日本人学生だった。先月末に私が日本から持ってきたノートパソコンが故障し、こちらのサービスを受ける場合は最低でも 400 ドル掛かるため、こちらで安価な新しいパソコンを用意することに決めた。その際、ロチェスターでの生活に慣れている日本人の生徒に相談したところ、性能がきわめて高いパソコンが特価で販売されている情報を仕入れてくれ、日本で買うよりもはるかに安価に環境を復旧することができた。そのほかにも、自動車を持った生徒が学外の生徒の移動を手伝ったり、経済状況に困窮している生徒には食事を分け与えたり、日本人同士での助け合いが頻繁に行われている。異国の地ではその場に溶け込むことは重要であるが、同じ国からの出身者同士で助け合うことも必要であると感じた。特に、あらゆる国からの移民が集まるニューヨークでは、それが普通に行われているともアメリカの文化に関する文献で学んだ。現在は RIT に所属する日本人学生が例年に類を見ないほど多いため、たった一人の留学では学べることができなかったことを経験でき、私はそういった点でも幸運だったと感じている。

私がロチェスターでの生活を始めて三ヶ月が過ぎ、秋学期が終了した。学期末に実施された英語能力試験で、私は文法、語彙、読解力を試す Michigan テストに合格することができたが、英会話、英作文の試験には米国大学の授業を履修するには十分な成績を残すことができなかったため、来学期は不得意分野に重点を置

いた英語科目を履修しようと考えている。また、唯一の大学課程科目である芸術史の期末試験の実施時間が Michigan テストと同じ時間になってしまったため、その試験を受けることができなかった。来学期は Michigan を受ける必要がないため、このような状態は避けることができると思われる。